

## 英米文化学会会報 第22号

SES NEWSLETTER

No. 22



## 英米文化学会第87回例会および総会のお知らせ

標記の例会および総会を下記の要領で開催します。

◆開催年月日：平成7年3月11日（土）

◆場 所：日本大学歯学部3号館第7講堂（3階） お茶の水ニコライ堂隣

◆時 間：15:00-18:00（受付14:30）

研究発表 15:00-17:00

1. Family Dramas of Sam Shepard

James Godley (昭和女子大学)

司会 倉崎 祥子 (昭和女子大学)

2. *Romeo and Juliet*

— 材源との比較を中心に —

中村 豪 (昭和女子大学)

司会 門野 泉 (清泉女子大学)

総 会 17:00-18:00

懇親会 総会終了後 会場：モーツアルト 千代田区神田小川町3-14 電話番号 3291-2021

会費5,000円

## 学会カレンダー

本年3月から8年3月までのスケジュールは下記のようになりますのでお知らせいたします。なお、研究発表申込の要領等については本号の3頁をご覧ください。

★英米文化学会カレンダー★  
【例会・総会】

平成七年

三月十一日（土）

第八十七回例会

総 会

六月十七日（土）

第八十八回例会

臨時総会

九月二日（土）

第十三回大会

十一月十八日（土）・十九日（日）（二泊二日）

第八十九回例会

平成八年

三月九日（土）

第九十回例会

総 会

【研究発表等申込締切日一覧】

第八十八回例会研究発表申込締切

三月十七日

第八十八回例会研究発表要旨締切

四月十七日

第十三回大会研究発表申込および発表要旨締め切り

四月二十八日

第八十九回例会研究発表申込締切

八月十八日

第八十九回例会研究発表要旨締切

九月十八日

【英米文化】原稿締切

十月三十一日

第九十回例会研究発表申込締切

十二月九日

第八十九回例会研究発表要旨締切

平成八年二月九日

## 第87回例会研究発表レシメ

## 1. Family Dramas of Sam Shepard

James Godley

Sam Shepard is not only the most prolific American playwright of this generation, but also one of the most significant. He has been ranked alongside of such giants of the theater as Tennessee Williams and Arthur Miller. His theme is in the broadest sense the meaning of America, the deteriorating American family, the weak, perverted American father image, the dream that America has betrayed, the land that has become a spiritual wasteland. His family dramas such as *Buried Child*, *True West*, *Fool for Love* are either somber or darkly humorous and show a bleak picture of American life.

2. *Romeo and Juliet*

——材源との比較を中心に——

中村 豪

シェイクスピアが *Romeo and Juliet* の下敷として利用した作品には、Arthur Brooke の詩 *Romeus and Juliet* や William Painter の *Palace of Pleasure* の中に収められた散文物語などが挙げられる。その中でもシェイクスピアに最大の材料を提供したのはブルックの作品である。一見すると、シェイクスピアの作とブルックの詩のプロットや主要な登場人物の輪郭は似通っている。しかし、その反面、シェイクスピアの独創によって生み出された、または、作り変えられた人物も少なくない。

本発表では、ブルックの詩とシェイクスピアの *Romeo and Juliet* を比較しながら、両者の共通点と相違点を明らかにする。同時に、シェイクスピアによる改変の結果生じた劇的効果も検討する。

## 書 評

田島伸悟・著、『英語名人河村重治郎』新版 および『新クラウン英和』第5版

小野 昌

本学会会員の田島伸悟氏による河村重治郎の伝記の新版が三省堂選書として出版された。著者は多年にわたり辞書づくりの達人河村のもとで『新クラウン』や『初級クラウン英和・和英』に携わった方であり、師匠の没後はその改訂の中心的な役割を担っておられる。

河村は独学の人であった。学歴は秋田中学中退。その後中学の教員免許、さらに第1回目の高等学校教員免許も独学でパスしている。37歳で福井中学を辞し、横浜高等商業学校教授となり、岡倉由三郎の『新英語大辞典』の執筆に関して以来、一貫して初級者向けの辞書執筆に情熱を傾け、死の直前には中学1年生向けの『学習クラウン』に至るその軌跡は、むしろ当然であったのかもしれない。

すべての良質の伝記がそうであるように、著者もまた脚を使った情報の収集にあたっている。福井中学校当時の大正時代の河村の姿を求めて福井へ、そして秋田中学の生徒であった明治時代の師の姿を求めて秋田へと脚をのぼし、ゆかりの人達から話を聞きながら、不明の点を次々と明らかにしてゆく。このような地道な調査のもたらす事実の積み重ねと、著者の日本語の表現力の確かさによって、一気呵成に読み通さずにはいられない力を与えている。

河村の辞書の代表作とも言える『新クラウン』の第5版がこの伝記の新版とほぼ同時に三省堂から出版された。この版から改訂者の名前は沢崎九二三から田島伸悟氏へと変わっている。見出し語数はおさえ、語義分類はなるべく少なく、また1語義の中の訳語も学習者が一呼吸のうちに読み取れる数（できる限り3つ）に留めようとする河村の方針は貫かれている。さらに旬用例ではなく、あえて文用例を出して理解させようとする配慮がなされていることは類書と比較してみれば一目瞭然である。

河村は晩年、著者に「私は、膝を突き合わせて生徒に英語を教えてみたいんです」と語ったという。学習者用の辞書づくりに半世紀をかけたこの英語名人の伝記は、我々英語教員に英語を教えることの意味をあらためて問いかけている。名著である。

### 本学会員の著書出版のお知らせ

大石五雄先生が下記の著書が出版されました。心からお慶び申し上げます。

『アメリカ英語とイギリス英語』丸善ライブラリー（平成6年9月刊）

### 研究発表等の申込要領について

大会や例会での研究発表をご希望の場合には、下記の要領にてお願いいたします。申込締切日の詳細については本号1頁の学会カレンダーにも出ております。

#### 1、第13回大会

発表申込先：菅村充利先生 〒165 東京都中野区鷺宮4-25-12

発表者氏名、所属、研究発表題名を明記の上、400字程度の発表要旨を添えて封書でお申してください。締切は4月28日です。なお、発表時間は30分です。

#### 2、例会

発表申込先：鈴木俊二先生 〒124 東京都葛飾区堀切2-47-14

発表者氏名、所属、研究発表題名、希望する発表時間の種類（A:20分、B:40分、C:60分）を明記し、郵便でお申してください。締切は各例会開催日の3箇月前です。

発表要旨：各例会開催日の2箇月前までに400字程度の要旨を同じく鈴木先生宛に郵送してください。

#### 3、『英米文化』原稿

申込要領は『英米文化』巻末に掲載されています。また、本会報第20号の関連記事（『英米文化』への入稿時のお願い）もご参照の上、締切厳守でお願いいたします。なお、ワープロまたはパソコンのフロッピーを添付される場合には、フロッピー（のケース）に、氏名・電話番号・ワープロ/パソコンの機種名を明記してください。

次号は5月下旬発行の予定です。掲載希望の記事等ございましたら編集委員までお知らせください。

## 学会費・学会誌投稿者負担金改定について

学会費および学会誌投稿者負担金の改定案を次回総会（3月11日）にてはかりたいと存じますので宜しくお願いいたします。（財務担当理事石川郁二）

## 分科会活動状況報告

### 1. 第1分科会

1月7日（土）に会合を開き、本年刊行予定の『たたかう性—英米文学作品におけるヒロインたち』（仮題）について検討しました。現在、四部集まっています。次回は、2月25日（土）で、完成原稿を持ち寄る予定です。

### 2. 第2分科会

1月29日（日）に例会を開き、翻訳（*The Modern American Novel*, Malcolm Bradbury, O.U.P.）の検討をしました。次回は2月18日（土）の予定です。

### 3. 第3分科会

各メンバーがシェイクスピアの作品を一つずつ担当し、種本との比較を中心に研究を進めてきました。一名のメンバーを除いて、当初予定の論文を発表し、次の研究に従事しています。二本目の論文を全員が完成した時点で出版を計画しています。

### 4. 第4分科会

「英語授業におけるビデオ教材の利用—実践と応用」についての原稿を検討するために例会を月1回開いてきました。次回は2月12日（日）で「リスニング指導」について検討を予定しています。

### 5. 第5分科会

1月14日（土）に会合を開き、翻訳（*Do or Die*, Le'on Bing, Harper Collins[1993]）に関して原稿のチェックをしました。刊行（五月書房）予定の翻訳は、「アメリカ、ロサンゼルスストリートギャングを取り扱ったノンフィクション。アメリカの女性ジャーナリストが、抗争地域や少年更生施設での少年ギャングへのインタビューを通じて、この国が抱える深刻な青少年犯罪、また問題に対する社会の対応に目を向けている」（日高氏）とのことです。石山、渡辺、田辺、越智、山口（旧笹川）、日高、各氏の共訳です。次回は3月下旬に予定しています。

（分科会理事 五味田）

英米文化学会会報 第22号

編集・発行：英米文化学会編集委員会—油田 和子、小川 喜正、岸山 隆、武井 朋子、中村 豪、  
西崎 敬子、山根 正弘

発行責任者：中村 豪 守